

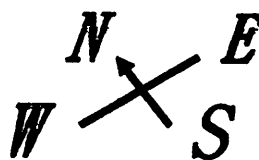
藤沢

2015年9月1日

第256号

エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議
(略称) 藤沢エコネット



主な記事

- ・ディーゼル車排気微粒子による健康被害
- ・「分散型メガソーラー」地産地消NWを
- ・15夏ふくしまっ子リフレッシュ
- ・武田問題総会 ・放射能測定値

http://members3.jcom.home.ne.jp/fujisawa_econet/
事務局 e-mail: aoyagipc@jcom.home.ne.jp 青柳
☎/FAX 0466-87-4922

猛暑の記録

2013年8月12日に、高知県の四万十川に近い江川崎で日最高気温41℃が記録されたことは記憶に新しい。今夏の東京では、7月31日から8月7日まで8日連続で猛暑日となった。昨年12月に、気象庁大手町の気象観測露場が北の丸公園の露場に移設され、ヒートアイランドの効果が弱まったため従来よりも低い気温になることが心配されたのに関わらず、である。その後、8月8日には35℃以下となり、連続猛暑日の記録はストップした。

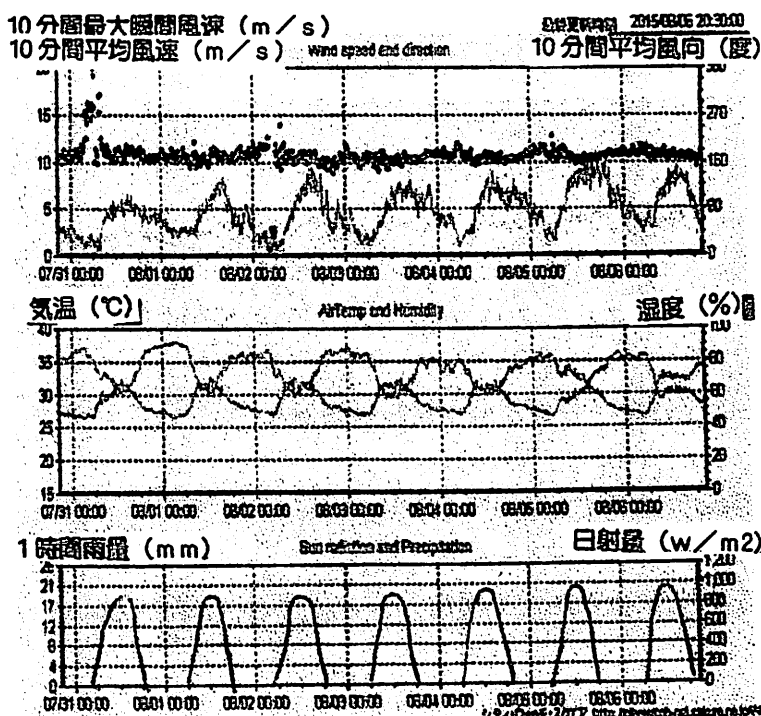
東京では観測開始した1880年以来最も長く続いた猛暑日の記録となり、高温出現の常連である多治見や館林では、相変わらず異常な高温が現れている。このような気候になってくると、35℃以上はもはや異常とは言い難い。ここで、夏日とは日最高気温が25℃以上の日、真夏日とは日最高気温が30℃以上の日、猛暑日とは日最高気温が35℃以上の日である。ついこの間までは、真夏日が継続することが話題であった。ちなみに、熱帯夜とは最低気温が25℃以下に下らない日である。この分だと、最低気温が30℃以下にならない日を何と呼ぶか、定義しないといけない。

藤沢 AWS (NPO 法人 CSW が藤沢駅近くのビルの屋上で観測、ホームページで公開中) の、7月31日以降の7日間の気温変化を図に示す。連日海風が入って、最高気温は東京ほど高まらず32℃程度だが(中段の図: 日中に高まる線)、夏型の気圧配置に覆われた真夏日が続いた。全くといって良いほど雲に覆われることなく好天が続き(下段の図)、風向は安定した南風(上段の図: 濃い黒点)で風速日変化が明瞭(上段の図: 薄色の折線、値の大きい方が瞬間値で他方は10分平均値)、相対湿度(中段の図: 日界の時刻に高まる線)は60%~90%、雨が降らない日が繰り返し現れた。

太平洋高気圧の規模は広大なので東京と藤沢では似た天候になるが、実際には湘南地域には地域の特徴が現れる。この点が、地域気象のモニタリングが重要という所以である。

湘南地域で、今夏のような天候が頻繁に現れるとすれば、日常生活を送るうえでのさまざまな工夫が必要になる。さほど悲観することでもなく、変化する環境のなかで、無理せずに、暮らしやすい生活スタイルを求めていることが大切である。

(林 陽生)



ディーゼル車の排気微粒子による健康被害

ディーゼル排気ガス微粒子 DEP と気管支喘息の因果関係をめぐる研究で有名な元国立環境研究所の嵯峨井勝教授の講演が、さる8月に神奈川県保険医協会の主催で行われました。氏はこの講演の中で、これまでの大気汚染の歴史を振り返ると共に、浮遊粒子状物質 SPM・微小粒子状物質 PM2.5 そして今後はさらに小さい超微小粒子(ウルトラファインパーティクル=ナノ粒子)の恐るべき危険性について警告しています。

このナノ粒子については、気管支肺胞はおろか血管やリンパ球へも侵入する、鼻の嗅覚から脳内にも取り込まれ、認知機能低下の変化まで論究されているとのことです。

DEP についてネットで検索すると自動車会社の広告がたくさん出てきます。ディーゼルエンジンの改善によってますます完全燃焼に近づき、微粒子も出ないようなことが書いてあります。これは嵯峨井教授の言うこととは真逆です。教授によれば、こうした改善がされればされるほど今度はますます微粒子になりナノ粒子が問題になってきたと現状分析されています。

かつて SMP の環境基準はよくても実は PM2.5 をもつとはやく測定していればその環境基準は達成されていなかった(PM2.5は概算でSPMの7割で計算できるとされています)と、重大な報告をされています。そして、これと同じことが PM2.5 はよくても今度はナノ粒子では達成されていなかったということになると主張されています。

国も未だにこのナノ粒子の環境基準については策定していません。ことは次世代の子ども健康に関することです。胎児期汚染による変化が喘息発症に確実に受け継がれるという新しい知見(エピジェネティクス=遺伝子外的遺伝)も紹介されています。なんとこのディーゼル車の排気微粒子による健康被害を防ぐではありませんか。

木下薫



武田問題対策連絡会 2015 年総会開催

猛暑も中休みの8月23日連絡会総会が行われ、30名ほどの参加でした。

第1部で、武田薬品OBの原雄次郎さんに講演をお願いいたしました。原さんはグローバル化と称してM&Aで巨額の資金を投じた現執行部に対し、その是非を問うて、昨年の武田株主総会において、マスコミも驚く「7項目の質問」を執行部にぶっつけ、さらに本年6月に「大丈夫か 武田薬品」という本を出版し、引き続き現執行部を追及しています。

講演は「天国の新兵衛(長兵衛)が嘆く現在の武田薬品」と題して、外人部隊にハイジャックされた武田薬品の実情を詳細に語っていただきました。

第2部は、議長選出後、活動報告、会計報告/決算・予算、活動計画、役員選出及び質疑が行われ、諸議案を承認。連絡会活動も7年が経過し、役員の方々の若返りをはかるとともに、共同代表制を採用することとしました。安楽(会報担当)、福岡(ニュース担当)、青柳(事務局担当)、福永(会計担当)で執行部を組みます。

定例会(前年度12回開催)をさらに充実させ、会員へのフィードバックを十分に行うため会報の発行を行う。運動の原点である周辺住民を巻き込んだ活動を強化すべきとの提案を踏まえ、武田湘南研究所の安全を地道に監視していくことを重要としました。

そのため、①武田研究所周辺のウォッチングにて、周辺地域を回り、異常や困ることなど聞き取り調査をする、NO2測定(年2回予定)②武田薬品との話し合い(環境報告と近隣要望...)③遺伝子組換え実験廃液漏洩4周年門前宣伝行動・ニュース22号発行・配布・ニュース英文発行・外国人記者クラブに配布④学習会「カルタヘナ法と武田湘南研究所実験廃液漏えい事件等」⑤行政との話し合い⑥BSL4(レベル4の実験室)稼働と武田湘南研究所の位置付け。以上を活動の中心におき、ともかく、外国人社長を迎え営業強化を図る武田に対し、湘南研究所の安全管理体制を近隣住民の協力を得て地道に監視することを続けていきたい。

(共同代表 福岡)

ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南&こどもの国

今年の夏も福島の子どもたちをリフレッシュに招待しました。7/30～8/3の4泊5日の日程で、34人は、こどもの国でプール遊び、ポニー牧場で乗馬体験など。藤沢では江の島へ行き、江の島水族館へ行き、湘南台子ども館でプラネタリウムを見たりと分かれて楽しみました。

その後、日本大学の広い敷地にある農場では牛、ロバ、ヒツジなどの動物と触れあい、日大生さんに詳しく説明を受けたり触ったりして過ごしました。昼食にはバターを手作り体験し、日大特製のホットドッグを食べました。災害救助犬のデモンストレーションにも参加し、博物館の動物の標本などを見学しました。

室内でもよく遊び、これ以上出せないほどの大声をあげてボール遊びや鬼ごっこ？。そこには必ずボランティアで参加された日大生さんが子どもに寄り添いいっしょに遊んでくれました。



7回目となった「ふくしまっ子リフレッシュ in 湘南&こどもの国」は炎天下の中、事故もなく無事に終えることができました。

交流会ではそれぞれの思いを話されました。

「子どもは大喜びだった。こんなにも笑顔で遊んだ姿を見て幸せだった」「自然な遊びが出来て良かった。ありがたかった。」と福島母親は感想を述べました。福島県南相馬市、福島市、いわき市、川俣町他から参加された親子です。



この保養活動を行うに当たり、日大の小林教授、糸長教授、こどもの国協会、藤沢市、藤沢市社協ほか多くの方にご援助を頂き感謝申し上げます。募金集めも毎回心配していたところ、今回は日大にたくさんご支援をいただきました。

何といっても大学生さんたちには若い力で接していただき私たちもエネルギーをもらいました。

この保養活動がこれからも続けて行くことは福島の子どもたちにとって大切です。福島の場合は放射能線量が高いだけでなく、生活費や精神的な苦痛はまだ解決されていません。今後もぜひ続けなければと思っています。（福島の子どもたちとともに・湘南の会 荒井かつ子）

放射能測定値

8月後半は小雨模様の日が多く、高層マンションでは、下の階の方が高濃度に出ました。雨で空中の放射能を含んだ塵が下に落ちたと考えられます。

(HORIBA Radi)

測定日8月31日 曇り 単位マイクロシーベルト

稲荷1丁目マンション	1階	0.067
	5階	0.053
	14階	0.054

8月29日 曇り 遠藤矢向公園 0.033

ECONET INFORMATION

「分散型メガソーラー」でエネルギーの地産地消
と消費のネットワークづくりを！！

今夏は記録的な猛暑、巨大台風の発生、藤沢での竜巻など異常な気象が続発しています。地球温暖化による影響が確定的です。温暖化をストップさせるため私たちは「省エネ・節電」に努めてきました。「原発再稼働」は避けられないのでしょうか。それとも「自然・再生可能エネルギーの普及」を選択するか問われています。

これまでに藤沢市では太陽光発電への補助を受けて、2,000件余りの個人住宅に太陽光発電が普及しています（藤沢市の世帯数の約1%）。しかし、国・県の補助制度はなくなり、今年からは市の5万円のみとなりました。さらに、電力の固定買い取り（FIT）価格が引き下げられていくので、今後、個人住宅での太陽光発電導入にはブレーキがかかりそうです。この様な中で藤沢市としては、市民各家庭でのCO2削減が一層必要です。

藤沢市は今年2月議会で「藤沢市エネルギーの地産地消推進計画」を策定し、市内事業所100カ所について太陽光発電設置費の1/2補助を環境省のGPP事業として受けられる・「市民主体型市民発電所づくり」を支援することなどがあります。

私たちの会としては、市民主体の設立形態、財源問題、新電力（PPS）の活用、エネルギー自立型のエコハウス、農地でのソーラーシェアリングなど具体的活動を進めています。

更に電力量の消費を調べるため「環境家計簿」調査にも取り組むこと、また、住宅や農地に太陽光パネルを設置し、将来はそのネットワーク化をめざします。目下、そのために候補地を探し、特に農地での「ソーラーシェアリング」は農作物を栽培しながら、太陽光発電ができるので、営農も安定化します。資金調達と運営のために「自然エネルギー組合」または、一般社団法人、NPOの設立めざしています。

「エネルギーの地産地消による循環型社会」をめざして、防災に強い「分散型メガソーラー」による低炭素都市づくりを市民の手ですすめます。

（地産地消エネルギー藤沢市民の会 代表宮地俊作）

「小さき声のカノン」選択する人々」

ドキュメンタリー映画上映

9月26日（土） ①10:00～ ②13:30～

湘南台市民シアター 入場料 1000円

学生（中以上）500円（当日売りも同額）

問合わせ 上映実行委員会 090-7282-0376

茅ヶ崎環境フェア

9月20日（日）10:00-16:00

茅ヶ崎公園・茅ヶ崎市役所5、6、7階ほか

講演 観賞 展示 発表 体験 食べるなど



「ジョンラーペ」南京事件を描いた話題作映画

9月11日（金） 14:00・19:00

藤沢市民会館 小ホール チケット代 1000円

問合わせ 090-7405-4276・090-5416-3843

第48回みんなの消費生活展

11/14～15 10:00-17:00 明治市民センター健康

プラザ 主催／問合わせ 藤沢市 0466-25-1111(2592)

藤沢エコネットから

◆学習会「増え続ける汚染水

～海と魚の放射能汚染 PART 2」

トリチウム等のお話もあります

9月23日（水・祝）13:30～ 資料代 300

講師 山崎久隆さん（たんぼぼ舎）

◆会員募集＝年会費・購読料→3000円

◆前号の1ページの写真は鈴木市長がはっぴにサインをしているところです。説明不足をお詫びいたします。

◆事務局会議 9月10日（木）10:00～

市民活動推進センター

〈編集後記〉 涼しい9月を迎えたが、国会は熱くなるばかり。安保法制案が大揺れで8月末の、12万人の国会包囲と全国数十万人の抗議行動、世論調査は3大新聞とも法案反対が過半数である。歴史の岐路である。8月末発表の福島県甲状腺検査結果によると、子どもたちの発症は疑いを含め138人に増えた。北茨城市でも増えているという。周りにも検査を勧めたい。(A)